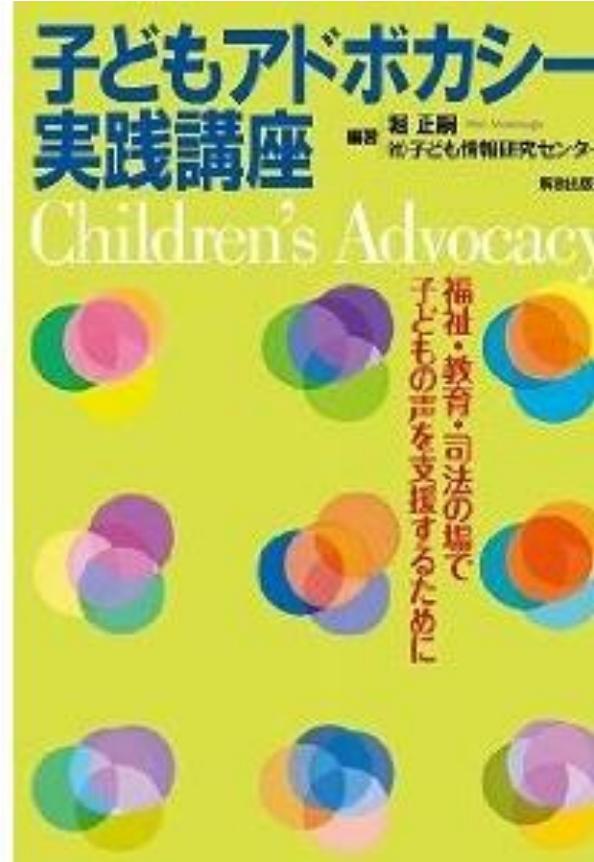


基礎講座 個別アドボカシーとは

講師：栄留里美

大分大学福祉健康科学部専任講師
子どもアドボカシー研究会副代表

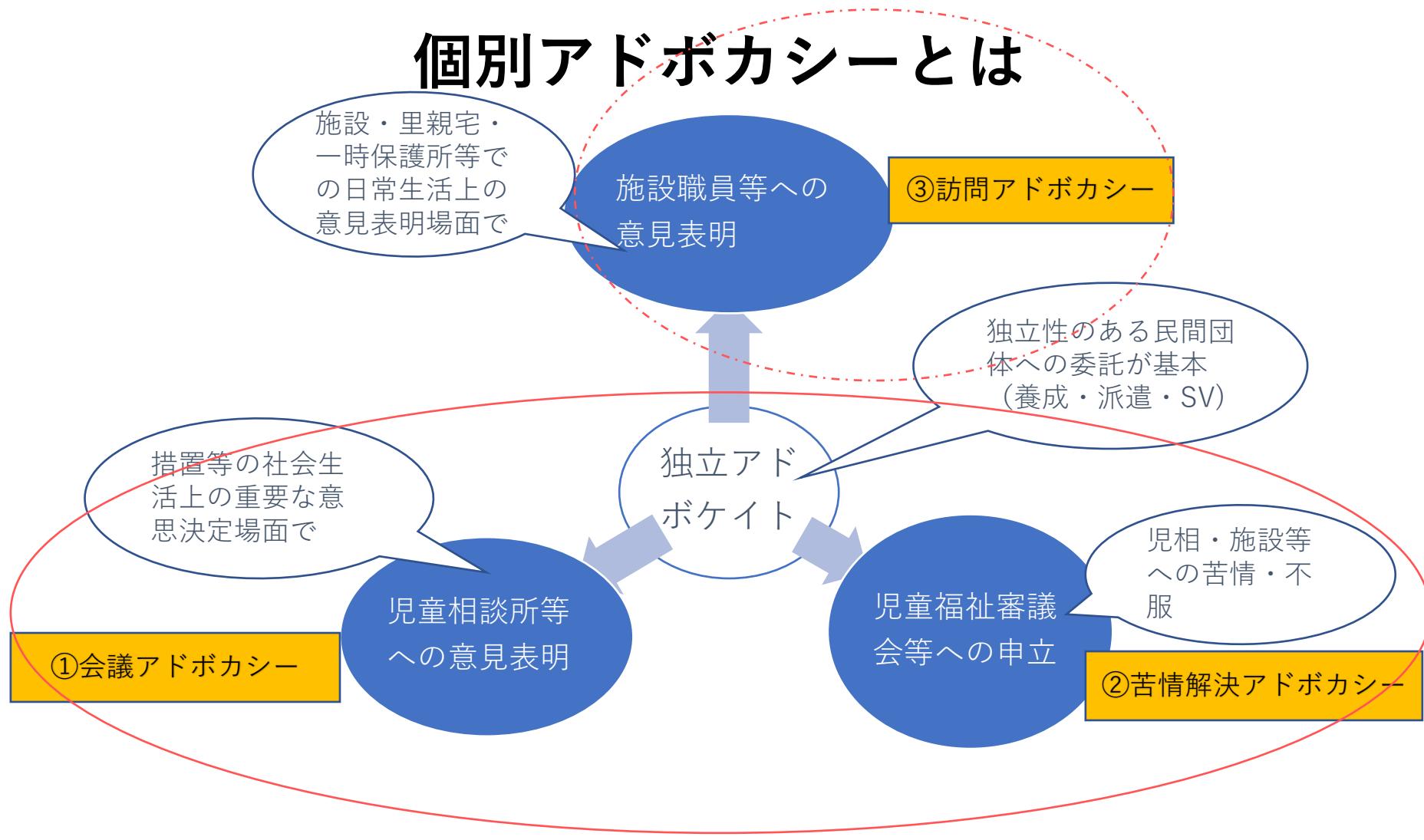


著書・共著

流れ

- 1) 個別アドボカシーとはなにか
 - 2) 子どもが意思決定の場に参画するとは？
 - 3) 意思決定の会議参加プロセスについて
 - 4) 各段階で行うこと
- まとめ

個別アドボカシーとは



子どもが意思決定の場に参画するとは？

例) ファミリーグループカン
ファレンス (F G C) とは

- 「拡大家族ネットワークの潜在的力を活用し,拡大家族や場合によっては親しい友人・近隣がソーシャルワーカーをはじめとする専門職とともに,子どもが安全かつ十分に養育されるための必要項目を話し合う公式の会議」
- 他の会議との違い→専門家主導ではなく家族主導で計画を練るという点
- ニュージーランドで開発(1989年)にされ,17カ国以上で活用.



こどもぬきで、
こどものこと
をきめないで



FGCの対象と効果（参考）

- ・【対象】イギリス——子どもに虐待など重大な侵害がある場合、家族と一緒に住むことができない場合、リービングケアの子ども、少年犯罪、反社会的行動、トラウマの症状がある子どものパーマネンシープランニング
- ・【効果】家族が意思決定に参加することによって、子どもの再虐待が減る等の効果が認められてきている。
- ・【日本】研究が進んでいる。神奈川県児童相談所・大阪府中央児童相談所等で実施。

F G C の手順 1 (参考)

- 1 紹介/送致 家族が利用の可否を決められる
- 2 準備 コーディネーターは（拡大）家族のメンバーと直接話し合い、家族ネットワークの確認作業に入る。子の養育に重要なメンバーを確認し招聘する。
- 3 情報提供 家族全員が顔を合わす。進行役はコーディネーター。目的は家族プランを作成するための情報収集とその共有化である。専門家は家族プラン作成の為の条件提示と情報提供に限定され、家族をアセスメントしたり自分の考える家族プランを強要したりしてはならない。

F G C の手順 2 (参考)

- 4 プライベート・タイム 家族だけで家族プランを作成
- 5 家族プランの合意 家族プランは専門家（ソーシャルワーカー）の審査を受ける。基準は子の安全と福祉が守られ、虐待が回避される内容になっているかという点
- 6 家族プランの検討会 家族プランのモニター や検討会はソーシャルワーカーの責任である。検討会は家族プランが実施されて12週間以内

積極的な子ども参加と支え手（参考）

- ノルウェーやオランダのように乳児から参加するところもある（林 2008：103、Standbu,A interview）。
- イギリスでは独立アドボケイトの利用で、より年少の子どもたち（4歳以上）も参加する（Horan ら2003;Laws ら2010）。
- またはFGC参加者から/子どもが信頼する身近な人を選んでサポートとして子どもの参加支援を行うのが通例のようだ。（呼称の色々→ノルウェー：support figure、スウェーデン：child's spokesman/person、イギリス：family supporter）

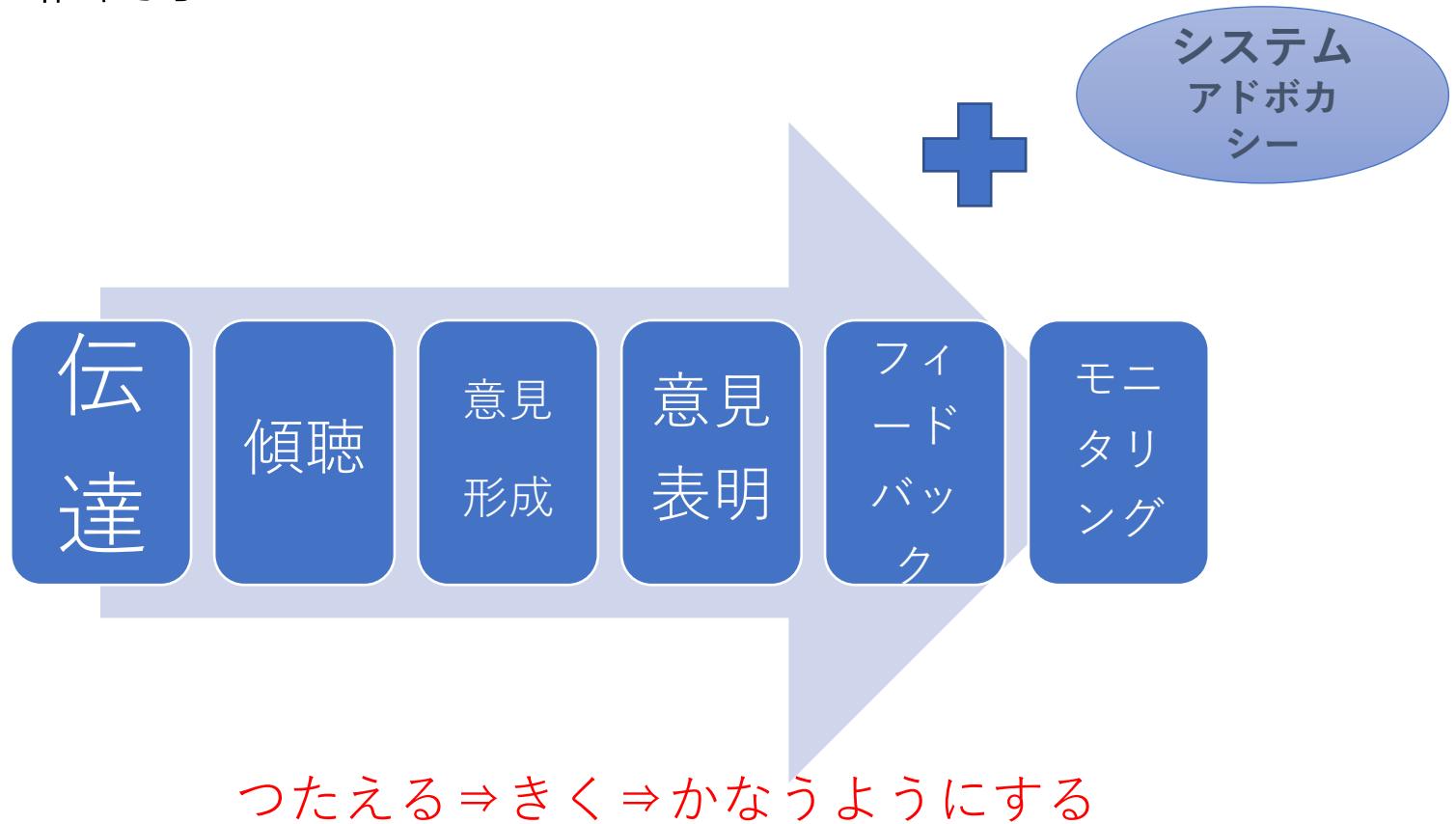
子ども参画の意義 「聞いてもらえたことに満足」

- ・様々な調査結果・・・多くの子どもはFGCに出席することを選び、参加できただことに満足している (Marshら1998 ; Horanら 2003 ; Hollandら2005; Hollandら 2006 ; Bell ら 2006 ; Lawsら 2007,2008,2010) 。
- ・例えば、FGCに参加した25名の子どもの追跡調査→25名中22名がFGCのプロセスに参加できしたこと、そして聞いてもらえたことに満足している (Hollandら 2006)。
- ・なぜこのような結果になるのかー子どもとおとの優先度の違い(Hollandら 2006)

続き

- ・家族、ソーシャルワーカー、コーディネーター・・・これからの実践をどうするかを決めることが重要。
- ・子どもは家族に会えること、自分のことについて話せること、そしてこれからの実践の順で優先 (ibid:104)。
- ・「プロセスというのは結果と同じくらい重要な」

個別アドボカシーのプロセス



1日の流れ(参考)

プロセス	実施事項
①導入	あなたの仕事を説明する セッションの長さ 「アイスブレーキング」のゲーム、他の人も参加させる？
②開始	同意／ルール／守秘義務／ワークのやり方など おもちゃ／ゲーム／資料を選ぶ セッションに向けて準備する
③移行	ワークを行う場所に移動する
④中間	セッションが進行
⑤移行	ワーク終了／要約／また会うのであれば、日時、場所を合意する
⑥終わり	おもちゃや資料を片付ける セッションと関係のない、子どもが選んだゲームをして遊ぶ
⑦さよなら	次のセッションまで／FGC（ファミリーグループカンファレンス）まで／子どもがあなたに連絡するまで

アドボケイトの動き

—伝達

- 会議のコーディネーターがこの会議の趣旨を説明。（説明がない場合はアドボケイトが行う）
- アドボケイト：会議前に2・3回会う
 - ①アドボケイトの説明（5分ください！－あなたのマイク、守秘の説明など）
 - ②カードゲーム等で遊ぶ

子どもがアドボケイトを希望するかを確認
→希望した場合⇒次へ

—こどもたちの声を聴き、とどける—

アドボケイトって何？

- ・こどもたちの気持ちを聴き、いっしょに考えます。
- ・こどもがおとなに思いを伝えられるように支えたり、伝えてほしいことがあればかわりに伝えます。



こえ おお
みんなの声を大きくして
とどけるマイクみたい

こんなとき、アドボケイトにはなしてみませんか？ひみつは守ります。

- ・いやなことがあった…
- ・気持ちをじっくり聴いてほしい…
- ・たたかれたり、いやなことをされている…



- ・とくべつにかかわってくれる味方がほしい
 - ・お話し以外でも、みんなと遊んだりしたいと思います！
- よろしくおねがいします！

アドボケイト = マイク



守秘の説明に



- ・話したいことをまとめる・傾聴
- ・出席するかどうか（手紙、ビデオレターでの参加）、どのように話したいか、代弁してほしいかどうか、FGCの最中にふたりで話し合うためのサインはどのようにするか等を話し合う。
- ・子どもとFGCで食べる料理やお菓子を決める。
- ・子どもに部屋を飾る絵や「ようこそ」という紙をつくる。
- ・FGC開催直前に、準備段階で話したことで変更したことはないか確認する。

エリー（6歳）のケース

- ・母親がエリーをパブに置いて男性と一緒に去ってしまったため、エリーは3週間公的な支援を受けている。FGCの議題はエリーが今後どこで安全に暮らせるかということである。写真にある「スターチャート」を使って、誰があなたにとって大切で、何かその人に言いたいことがあるかをアドボケイトはエリーに尋ねた。

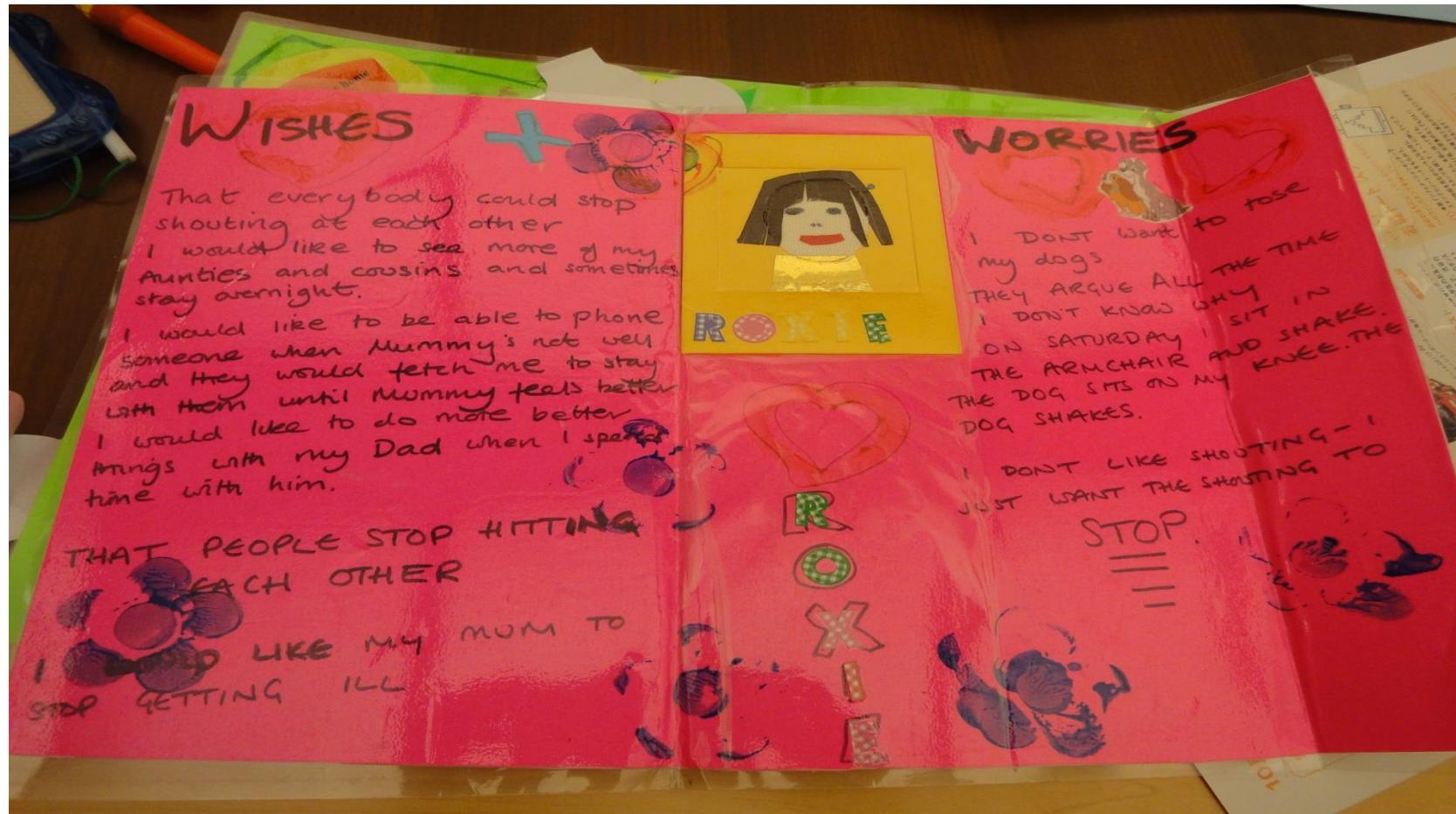
給食担当職員
「あなたの給食が大好き」

母親「ママ愛してる。お酒を飲むなら家に帰らないよ。私を叩くのがいや。」



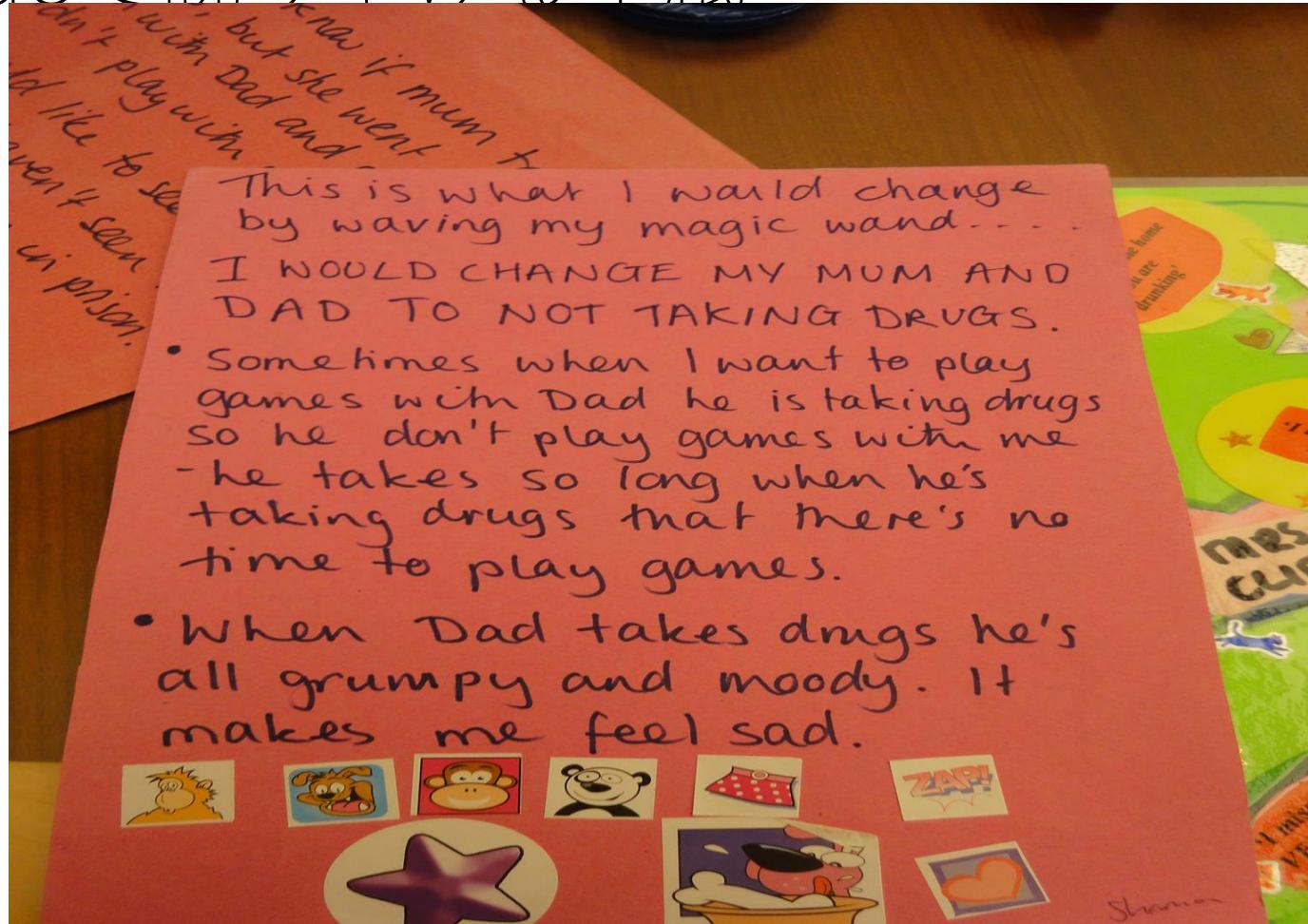
Hilary Horanより許可を得て掲載

「心配ごと」と「願いごと」



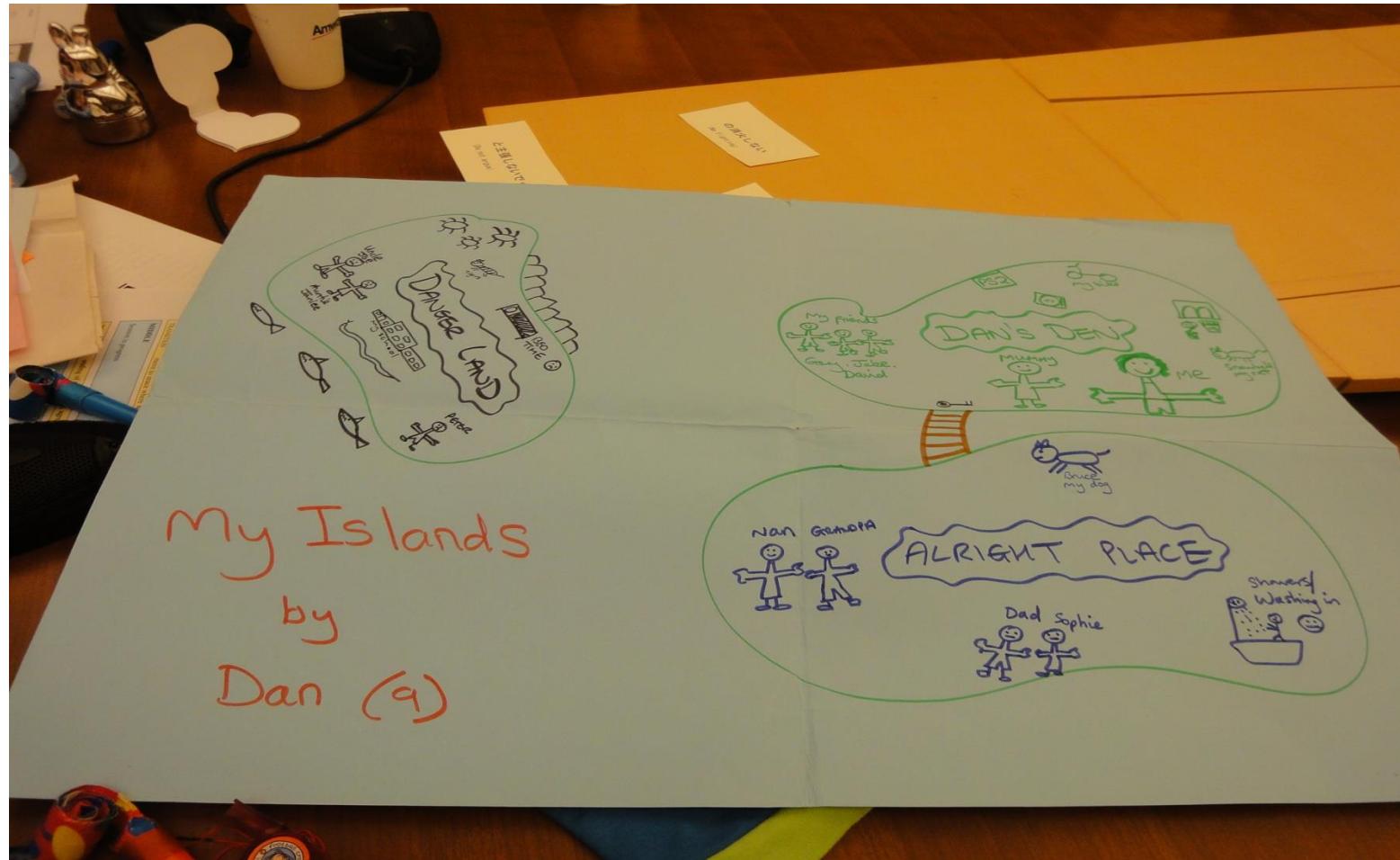
Hilary Horanより許可を得て掲載

FGCで読み上げる手紙



Hilary Horanより許可を得て掲載

「危険な島」「大丈夫な島」「安全な島」



Hilary Horanより許可を得て掲載

「魔法のつえ」 あなたの願いは？



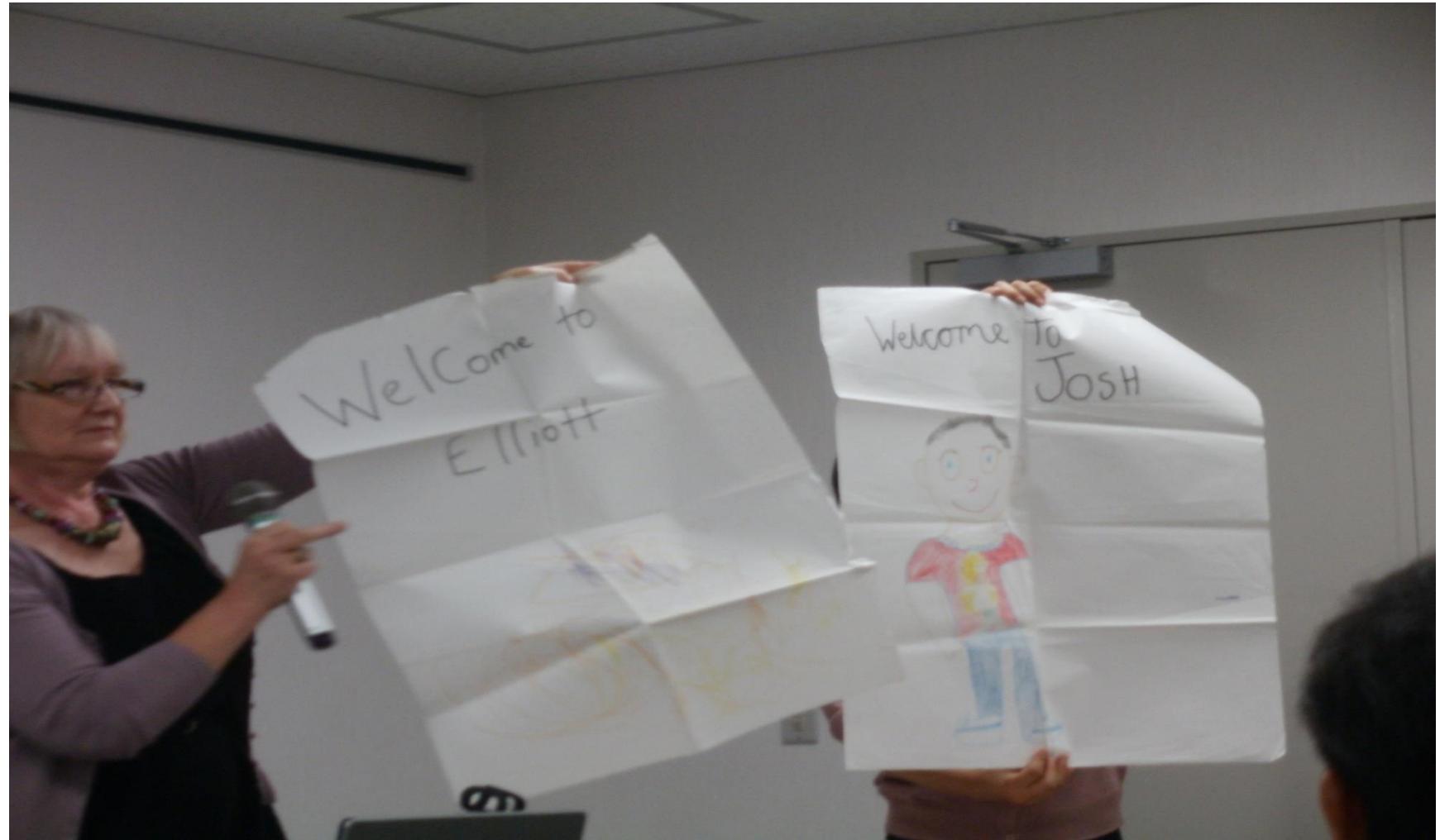
Hilary Horanより許可を得て掲載

感情の手袋



Hilary Horanより許可を得て掲載

「ようこそ私のFGCへ」



Hilary Horanより許可を得て掲載

子ども主導が原則→言いたくないことは捨てる 小さいシュレッダー準備



アドボケイトの動き

－意見表明支援

- ・アドボケイトは子どもの希望により子どもと同席
- ・→会議の中では、①準備してきたことを子どもが話すのを手伝ったり、②おとなが使うわからぬ言葉を説明
- ・乳幼児）会議の部屋の床にすわって遊びながら出席するのもOK
- ・もう1つ、部屋を用意。子どもがしんどくなった場合や遊びたいときにはその部屋にいる。

笛 「『分かるように説明して』のサイン」



Hilary Horanより許可を得て掲載

FGCはあと何分なんだろう？タイマーで見える化



Hilary Horanより許可を得て掲載

家族プランの合意段階

・・フィードバック・モニタリング

- ・子どもがプランを理解できるように支援
わかりやすく説明。ゆっくり・センテンスを短く
文字や絵を描きながら。
- ・子どもに守秘義務の約束をして、終了
- ・プランのモニターまたは検討会では
子どもが希望すれば再度アドボケイトが支援
 - ・苦情申し立てのアドボカシーの場合は、その後のモニタリングで電話等でアクセス。
 - ・必要があれば、公式な苦情申し立ての説明及びサポートを開始

議長に

- 会議で子どもの出席があり、子どもの声に反応を示さない議長に



- アド「よろしいですか？この子が今言った声に対して、ちゃんとレスポンスしてもらえることを見届けるまでは、この会議は終わらせませんからね」

栄留里美（2018）「英国における独立子どもアドボカシーの実践方法に関する研究—施設訪問アドボカシー実践者へのインタビュー調査を通して」『福祉社会科学』

独立アドボケイトに加えて

- コーディネーター・・・独立アドボケイトになぐ役割、家族サポーターが支援する場合にはサポーターの役割を説明し、支援する (WSFGCAS 1999-2001) 、サポーターなしの場合はコーディネーターが支援 (Horan,interview)。
- 家族・・・子ども参画の理解、サポーターになった場合は役割を全うする (中立にはなれない難しさ) (Lawsら 2007:67)
- 部屋・・・もう1つ部屋、安全なスペース (Laws ら2010) 、子どものおもちゃ・DVD等、保育士等の確保(Horan,interview)

まとめ

①子どもの権利・役割を伝えられるようになろう

②意見を出せる工夫が必要。気持ちを共感しよう。

③子どもがどのように話すか、打ち合わせしよう

④子どもの声が反映されたか確認しよう。苦情申立のサポートを

システム
アドボカ
シー

伝達

傾聴

意見
形成

意見
表明

フィ
ード
バッ
ク

モニ
タリ
ング

⑤システムに問題がある場合は、改善を求めるよう

つたえる⇒きく⇒かなうようにする

こどもぬきで、
こどものこと
をきめないで

